

地域の支え合い組織  
活動事例集

平成30年7月  
伊勢原市



## はじめに

本格的な人口減少社会の到来、ひとり暮らし世帯の増加などといった社会構造の変化とともに、地域のつながりはますます希薄化しています。

そのため、支援が必要でありながら福祉サービスにつながらない人、地域のセーフティネットでカバーできない人が増加し、これからの福祉のあり方として、行政だけではなく、市民や社会福祉法人、ボランティア、地域の団体などが連携・協力して対応することが求められており、高齢化の進展への対応、災害時の対応、高齢者等の見守り・声かけなど、顔と顔が見える地域の支え合い体制づくりが重要となります。

地域の支え合い活動については、「地域の困りごとを地域で解決したいと思うが、方法が分からない」「負担感を感じてしまうので取り組めない」といった声もあります。

本事例集には、他の地域において、何がきっかけで、どのように支え合い組織を立ち上げたか、課題としていることは何かなど、これからの地域活動のヒントになるようなものを掲載しております。

誰もが自分らしく生き生きと自立した生活が送れる地域社会の実現のために、本事例集を地域の支え合い体制づくり御活用ください。


# 伊勢原市内の組織

上平間台自治会支え合いサポーター (上平間自治会)			
地区の概要 (平成30年 4月1日時点)	自治会の世帯数 約280世帯 (桜台5丁目の一部) 地区の人口 約670人 年齢別人口 0～15歳 約90人 (13.4%) 15～64歳 約400人 (59.7%) 65歳以上 約180人 (26.9%)		
実施者	上平間台自治会支え合いサポーター (住民有志) 10人 (男性2名、女性8名)	活動種別	地域交流活動
		対象者	高齢者中心
		設立年月日	平成24年9月
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 少子高齢化により見守りの必要な高齢者等が増加している</li> <li>● 人間関係の希薄化が進み、様々な生活福祉課題が顕在化・深刻化してきた</li> </ul>		
取組のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災をきっかけに、災害時の住民同士の支え合いは、日常生活における関係性が重要になると認識した</li> <li>● 地域の人々が顔を合わせ、交流できる場づくりが大切だという意見があった</li> <li>● 孤立、孤独を出さない見守りが必要となった</li> </ul>		
取組の内容	<p><b>【取組の概要】</b></p> <p>①集会所を利用した縁側交流サロン、子育てサロン等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の集会所を開放し、誰もが気軽に立ち寄り、お茶や世間話を行えるような場の提供</li> <li>・上平間台自治会支え合いサポーターの当番が常駐し、湯茶を用意</li> <li>・年10回程度</li> </ul> <p>②防災講演会の開催等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期消火訓練など、防災に係る研修・講演会を実施</li> <li>・年1～2回程度</li> </ul>		

<p>注意点や工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開催日は回覧で周知</li> <li>●普段外に出てこない人のお宅には直接チラシを投函</li> <li>●子育て中の世帯を対象にした内容の活動も行う（子育てサロン）</li> <li>●日常的に地域住民が顔を合わせ交流するために行う</li> <li>●地域の人々が顔を合わせる場をつくるためには、さまざまなテーマが必要だと考え、サロン活動、防災活動、施設見学等、幅広い分野をテーマにした活動を行う</li> </ul> <p>&lt;例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①近隣施設の見学研修会の開催（1年に1回程度）</li> <li>②ご近所見守りシートを利用した見守り活動</li> <li>③バザーの開催</li> <li>④こども食堂の開催</li> </ul>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後は普段外に出てこない人に対し、日常的に地域の住民同士で交流を行うことの楽しさなどをPRし、参加する人数を増やしていきたい</li> <li>●参加したことがない人にとっては、既にグループができていると新しく参加することが難しいと感じられてしまうため、参加している人に友人を誘ってもらするなど、徐々に参加者の輪を広げていくようにしたい</li> <li>●運営面においても高齢化が進んでいる。新たなサポーターを招き入れ、継続して活動を行っていただけるようにしたい</li> </ul>

# みなわ会生活支援サービス (あかね台自治会)


地区の概要 (平成30年 4月1日時点)	自治会の世帯数 約801世帯 (高森2丁目・3丁目・4丁目) 地区の人口 約2,000人 年齢別人口 0～15歳 約 200人 (10.0%) 15～64歳 約1,000人 (50.0%) 65歳以上 約 800人 (40.0%)		
実施者	運営委員10名 あかね台在住の支援員37名 (男性20名、女性17名) 70代以上の方を中心に活動を行っている。	活動種別	日常生活支援
		対象者	高齢者
		設立年月日	平成26年4月
地域の課題	●見守りの必要な高齢者等が増加している ●様々な生活福祉課題が顕在化している		
取組の きっかけ	●あかね台自治会が行っていたミニサロン活動の中で、アンケートを取ったところ、「電球の交換ができなくなった」、「水道の蛇口を直してほしい」といった日常の困りごとが書かれていた ●アンケート結果を自治会の活動報告で行い、住民による支え合いの大切さを共有し、地域のつながりで解決できるものは解決していく体制が必要となっている		
取組の内容	<b>【取組の概要】</b> <b>① 生活支援サービスの提供</b> (ゴミ出し、家具の移動、草刈り、植木の手入れ、電球の交換、話し相手になる 等) ・依頼は誰でもできるような軽作業 ・原則的に「70歳以上の高齢者のみの世帯」から受付 ・負担金：屋外作業1,000円/2h、屋内作業300円/1h ・毎週月曜日に、みなわ会の事務局員が自治会館で電話受付 ・支援員が2人1組で依頼者を訪問 <参考> ・平成26年度～29年度の累計活動実績 屋内作業：81件 屋外作業：145件 合計：226件 支援者数：延べ641人		

<p>注意点や工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉法人伊勢原市社会福祉協議会に相談し、「小地域活動推進事業助成金」の助成を受けることができ、金銭的援助を受け、ジャンパー等の必要物品を購入し設立に至った。</li> <li>●専門業者に依頼するような内容のものは引き受けない</li> <li>●主な活動準備経過 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年12月 設立準備委員会開催</li> <li>平成26年 2月 みなわ会発足のお知らせとサポーター募集の周知</li> <li>平成26年 4月20日 みなわ会設立集会</li> <li>平成26年 5月 7日 事務局開局・活動開始</li> </ul> </li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>※左肩のワッペン</p> </div>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援する側も70歳代以上が中心となっているので、50歳代や60歳代の方をどのように取り込んでいくか</li> <li>●リピート率が高く好評なので、この活動をもっと周知し、依頼する側と支援する側、どちらも広げていきたい</li> </ul>




# お助け隊

(東高森団地自治会)

地区の概要 (平成30年 4月1日時点)	自治会の世帯数 約484世帯(高森5丁目) 地区の人口 約980人 年齢別人口 0～15歳 約70人(7.1%) 15～64歳 約490人(50.0%) 65歳以上 約420人(42.9%)		
実施者	お助け隊 住民有志による活動(15名)	活動種別	見守り活動
		対象者	高齢者
		設立年月日	平成23年5月
地域の課題	●高齢化による住民の孤立、孤独死が問題になった		
取組の きっかけ	●高齢化の進展から見守り活動が必要だという声が挙がった		
取組の内容	<b>【取組の概要】</b> ① 生活支援サービスの提供 (刃物研ぎ(包丁)、屋内の片付け等) ② 安否確認のための見守り活動 ・地域内の75歳以上の高齢者を対象  ・毎週水曜日に刃物研ぎと見回り活動を行う。 ・個別の依頼は、その都度団地の管理組合が電話受付をし、お助け隊に取り次ぐ		
注意点や 工夫点	●団地の管理組合に依頼をし、依頼取り次ぎなどの協力を得られるようにした		
今後の取組	●今のところ住民から不満などの声は出ていない ●見守り活動は始めて間もない(平成29年度末から)ので、今後も続けていきたい		

# 買物支援バス

(東高森団地自治会)

地区の概要 (平成30年 4月1日時点)	自治会の世帯数 約484世帯 (高森5丁目) 地区の人口 約980人 年齢別人口 0～15歳 約70人 (7.1%) 15～64歳 約490人 (50.0%) 65歳以上 約420人 (42.9%)		
実施者	自治会が立ち上げ、運営は有志によって行っている (7名)	活動種別	買い物支援
		対象者	高齢者
		設立年月日	平成28年10月
地域の課題	●核家族化や高齢化の進行に伴い、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯の人々が増加している ●これまで自家用車や公共交通機関等を利用し外出していた人々が、加齢や身体機能の低下等により外出に苦慮されている		
取組の きっかけ	●日常的な生活課題を解決するため、伊勢原市社会福祉協議会の「買い物支援モデル事業」の支援を受け、地域住民による支援仕組みを創設した		
取組の内容	【取組の概要】 ① 大型複合施設へ買い物支援バス (ワゴン車) の運行 (エムアイプラザ、アクロスプラザ、フードワン等へ) ・毎月第1・3土曜日の午前中に希望者を対象 ・車両は「ケアセンター高森荘」からの無償貸与 ・利用者は車両の燃料の実費分を負担		
注意点や 工夫点	●社会福祉協議会が間に入って高森荘に依頼し、高森荘が車両を使わない日時に運行を行うようにした ●運転は、事業立ち上げの際に手を挙げた地域のボランティアで行っている ●利用者の代表に運営委員会に入ってもらい、利用者の意見を取り入れながら改善を行っている		
今後の取組	●継続するためには運転手の確保をしなければならない。		

# 東沼目安心見守り隊

(東沼目自治会)

<p>地区の概要 (平成30年 4月1日時 点)</p>	<p>自治会の世帯数 約894世帯 (沼目2丁目の一部、4丁目の一部、5丁目、6丁目、7丁目、沼目) 地区の人口 約2,400人 年齢別人口 0～15歳 約 290人 (12.1%) 15～64歳 約1,490人 (62.1%) 65歳以上 約 620人 (25.8%)</p>		
<p>実施者</p>	<p>自治会役員 4名 民生委員児童委員 2名 東悠会 (老人会) 4名 東部地域包括支援センターのケ アマネジャー</p>	<p>活動種別</p>	<p>見守り活動</p>
		<p>対象者</p>	<p>高齢者</p>
		<p>設立年月日</p>	<p>平成29年4月</p>
<p>地域の課題</p>	<p>●災害時に「身近に支援者はいない」割合が34% ●支援者がないにもかかわらず、近隣の人と関わりを持っていない人が多い (64%)</p>		
<p>取組の きっかけ</p>	<p>●地域の組織や関係機関等の連携を推進し、日ごろから見守りや支え合う体制の構築の必要性が強く認識された ●伊勢原市社会福祉協議会のモデル地区として、東沼目自治会に声がかかった</p>		
<p>取組の内容</p>	<p><b>【取組の概要】</b> ① <b>高齢者等の見守り</b> ・主に災害時要援護者や一人暮らし高齢者の登録を行っている住民 ・地域で日頃から支援が必要だと思われる人々の安否確認や状況把握 ・見守りのポイント ア 新聞や郵便物が溜まっていないか イ カーテンや雨戸が開閉されているか ウ 電気の点灯・消灯がされているか エ 異臭がしたり、ゴミが溜まっていないか ・月1回 (第2木曜日) に実施</p>		

<p>注意点や工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●打ち合わせ会議にはメンバーだけでなく、市や社会福祉協議会の職員にも参加してもらい、内容についてアドバイスをもらった</li> <li>●まず、手軽に取り組める「日常的な見守り」を始め、現在は「定期的な見守り」も行っている</li> <li>●懐中電灯、見守り隊専用チョッキを携帯・着用する</li> <li>●「東沼目見守り隊編成表」を作成し、年間の当番を決め、班長が出席の確認、活動日誌記録、お茶の手配等を行う</li> <li>●主な活動準備経過 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年 1月24日 第1回打ち合わせ会議</li> <li>平成29年 2月20日 第2回打ち合わせ会議</li> <li>平成29年 3月20日 対象者に対し、民生委員が訪問し、活動の説明と訪問の同意を得た。</li> <li>平成29年 3月27日 自治会回覧で周知</li> <li>平成29年 4月 活動開始</li> </ul> </li> </ul>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で把握している情報を共に協力者と共有し、日頃の生活の中で見守り活動を行う</li> <li>●自治会、民生委員児童委員、東悠会（老人会）、東部地域包括支援センターなど、地域の団体同士がメンバーになり情報を共有しているため、団体間の連携が取れている。今後も協力体制を継続していきたい</li> </ul>

# 神奈川県内（近隣市）の組織

神奈川県発行「平成 23 年度地域支え合い活動モデル調査  
研究事業報告書」より一部抜粋

# 災害時及び平常時の要援護者支援体制の確立

(平塚市 大神地域福祉村 「大神よりきの郷」)

地区の概要	地区の人口 約5,300人 年齢別人口 65歳以上 約1,020人(19.2%) 75歳以上 約 390名(7.3%)		
実施者	自治会役員 10名	活動種別	防災活動
	地区社協 3名	対象者	高齢者
	民生委員児童委員 11名	設立年月日	平成20年3月
	福祉村 5名		
	包括支援センター 1名		
地域の課題	●国道129号線沿いにある厚木ICに近く「ツインシティー計画」により、大きく変化する地域である ●環境が変化する中で、誰もが安心して住むことができる地域づくりを行っていくことが課題		
取組のきっかけ	●平塚市で推進する「災害時要援護者避難支援プラン」に基づき、災害時又は平常時の高齢者、障害者、病弱者の方々が安心した生活が出来る体制づくりを推進するため、平成20年3月に「地域福祉推進会議」を立ち上げ、地域福祉を充実させるために活動を行ってきた。		
取組の内容	【取組の概要】 ①要援護者支援のつどい <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者に、支援の取組みについて説明。</li> <li>・安心カード及び防災グッズの配布(支援者・要援護者)</li> </ul> ②地域支え合い活動モデル調査研究事業報告会  ～開催回数等～(平成23年度) ○要援護者支援のつどい 2月25日(土) 参加者64名 ○報告会 3月24日(土) 参加者86名 ○報告書作成 500部		

<p>注意点や工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●要援護者支援者に、支援の取組みについて、平塚市防災危機管理課、大神地区民生委員児童委員協議会、大神よりきの郷から説明を行い、「自分だけで支援するのか」という不安を取り除き、「地域全体で支えていく」ということを伝えた。</li> <li>●安心カード及び防災グッズを民生委員・自治会役員・支援者のチームで要援護者に配布し、要援護者の安心感や要援護者と支援者の信頼関係を高めることができた。</li> <li>●民生委員、自治会役員と支援者との連携が高まった。</li>   <li>●報告会を開催し、活動の周知を行った <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告（大神よりきの郷、民児協）</li> <li>・基調講演 板橋区福祉部長 鍵屋氏「災害時要援護者の避難支援と地域の支援体制」</li> <li>・地域支え合い活動モデル調査研究事業報告書の配布</li> </ul> </li> <li>●広報を作成し、関係者に周知した <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内は自治会回覧</li> <li>・要援護者、支援者、地域福祉推進委員会メンバー、社会福祉協議会福祉村大神よりきの郷会員に案内状配布</li> </ul> </li> </ul>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各団体の役員は2年交替となる場合が多く、地域の福祉力向上のため「地域福祉推進会議」を継続し、実効力のある組織に位置づける。</li> </ul>

## 住民ニーズに対応したボランティアチームの立ち上げ

(厚木市 森の里地区地域福祉推進委員会)

地区の概要	地区の人口 約7,000人 世帯数 約2,300世帯 年齢別人口 65歳以上 約1,200人(17.1%)		
実施者	森の里地区住民	活動種別	生活支援活動
	各種団体	対象者	高齢者
	福祉機関関係者	設立年月日	平成22年8月
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●独居高齢者や高齢者世帯が増加傾向にある。</li> <li>●造成された住宅地であるため、地区内の血縁関係は希薄で、身近で親族からの十分な支援を期待することは困難。</li> <li>●平成24年現在、高齢化率は現在約17.1%だが、年代別構成は50代後半から60歳代が最も多く、10年間で急速に高齢化が進む</li> </ul>		
取組のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成22年8月に支援ボランティア「もりの応援隊」を設立し、生活支援事業を実施している。</li> <li>●生活支援実施の中で、緊急的に身体介助を必要とする事例が発生し始め、支援員に軽度な身体介助の知識・経験が求められるようになったことや、高齢化に伴い戸建て住宅の庭の手入れが困難になったことによる草取り支援の依頼が急増したことから、ボランティアチームの立ち上げに取り組むようになった。</li> </ul>		
取組の内容	<p><b>【取組の概要】</b></p> <p><b>① 研修プログラムの作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援事業充実のため、軽度な身体介助が可能な支援員養成の研修プログラムを作成した</li> </ul> <p><b>② ボランティアを募集し、研修を実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ボランティアを、介護支援・除草・一般の各チームに登録し、活動を説明・準備。</li> </ul> <p>&lt;参考&gt; (平成23年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○説明会、研修会に延べ68名参加。</li> <li>○登録者数：介護支援チーム(7名)                      除草チーム(11名)                      一般支援チーム(19名)</li> </ul>		



<p>取組の具体的な内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護施設等から専門家を委員に推薦してもらい、カリキュラムの検討会を設置し、研修プログラムを作成した。</li> <li>●研修は体験学習も含めて3回実施。(13:30~16:30)  第1回 ボランティアとして基本・高齢者支援の基礎知識  第2回 介護技術を体験しよう(実技体験)  第3回 緊急時の対応と行動の仕方 他</li> <li>●研修プログラムが、生活支援事業の活動実態に基づいた内容となり、実際の支援に役立つものとなった。研修受講者に支援を行う上での自信がついた。</li> <li>●検討会を通して、地域包括支援センター、介護施設等との連携が強化された。</li> <li>●募集案内の自治会回覧。公民館だより・地域福祉便り掲載。多様な広報媒体を利用。</li> <li>●募集にあたって、生活支援の目的・活動内容についての説明会を1回開催。</li> </ul>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修の設定日に参加できないボランティアへの対応。</li> <li>●日常生活に困難を抱えている高齢者等に、家族以外のサポートを受け入れる意識を醸成。</li> <li>●事故や誤解を防ぐため、認知症や身体介助が必要な利用者への対応指針づくり。</li> <li>●利用者と支援者を結ぶコーディネーターの人材発掘・プール活動の要であり社会福祉士等有資格者が望ましいので、必要に応じた人材の補充を可能とするため、有資格者募集を継続的に実施する。</li> <li>●相談受付も可能とする活動拠点の確保</li> </ul>

<h1 style="text-align: center;">買い物支援から住民の交流へつなげる取組み</h1> <p style="text-align: right;">(厚木市 文郷山団地)</p>			
地区の概要	地区の人口 約400人 65歳以上人口 約160人(38.6%)		
実施者	自治会役員「木曜マーケット推進委員会」7人を中心に、ボランティアとともに活動を行う。	活動種別	買物支援活動
		対象者	高齢者
		設立年月日	
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化率が上がり、特に一人暮らしの世帯が多い</li> <li>●団地周辺にはお店はもとより、自動販売機もなく、買い物するにはアップダウンの激しい道を歩かなければならない状況である。</li> </ul> <p>～開催回数等～(平成23年度) 毎週木曜日14時から14時30分</p>		
取組のきっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上記の課題があり、毎週木曜日に市内の商店にお願いをし、団地内の公園まで移動販売に来てもらうようになった。</li> <li>●内容をより充実させて、住民のふれあいの場となるようにしたいと考え、活動をしている。</li> </ul>		
取組の内容	<p>&lt;取組の概要&gt;</p> <p><b>①木曜マーケット時の住民同士の交流の場づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木曜マーケットを行う際に、単なる買い物だけではなく住民のふれあいの場となるように過ごしやすい環境づくりを行った</li> <li>・雨風寒さ対策として、テント、ストーブの設置。音楽を流し雰囲気作り。自治会でお茶を振る舞い、コミュニケーションの場となるよう努めた</li> </ul>		

<p>注意点や工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会の会合でのPR、地区の公民館便り、回覧板、チラシなどで広報した。</li> <li>●住民が高齢者で、曜日や時間を忘れがちのため、貼り紙を多くしたり、市の広報車で、毎回開始の10分前にアナウンスをして回ってもらった。</li> <li>●民生委員とも調整を図りながら、独居高齢者などのリストと照らし合わせながら安否確認を実施した</li> </ul> <p>&lt;取組の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からは非常に好評で楽しみにしているという声を多くいただいている。</li> <li>・住民同士が声を掛け合うことが多くなった。実際に体調の悪い人等の情報が自治会長にすぐに連絡がはいるようになり、対応が早くなった。</li> <li>・この事業をきっかけに、買い物支援以外の福祉的事業（特に、地域包括支援センターの健康相談事業とのタイアップ）の可能性を見出すきっかけとなった。</li> <li>・様々な方面から注目を浴び、運営を担う役員のモチベーションがあがり、ボランティアからもやりがいがあるという声がある。</li> </ul>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●買い物支援事業は、市内の商店の協力を得て成り立っている事業である。購買者が少なく商店主の負担になることもあった。買い物支援事業の趣旨を住民に周知して、今後も継続して出店者に来てもらえるよう努めたい。</li> </ul>

# 子どもや高齢者が気軽に集える場づくり

(茅ヶ崎市 浜見平団地自治会)

地区の概要	地区の人口 約4,000人 65歳以上人口 約1,700人(43.9%) 75歳以上人口 約880人(22.3%)		
実施者	団地の住民が中心となって、住民がいつでも立ち寄ることができる場所をつくった。	活動種別	孤立防止活動
		対象者	高齢者
		設立年月日	
地域の課題	●60歳以上の世帯主が80%以上を占める等、団地の少子高齢化が進んでいる。		
取組のきっかけ	●平成23年8月よりUR(都市再生機構)と自治会、浜見平支援研究会(横浜国大・日大)と、高齢化する団地の中で、子育て支援を含み、団地のコミュニティの活性化を図るため協議をした。 ●その中で、「住民がいつでも来て話し合い、友好を深めあえる場所を創設する」こととなり、試験的に「ふれあいカフェ」を開設した。		
取組の内容	<p>&lt;取組の概要&gt;</p> <p><b>①「ふれあいカフェ」の運営</b></p> <p>・住民が立ち寄り、友好を深めあえる場所「ふれあいカフェ」を創設し、内容の充実を図る。</p> <p>～開催回数等～(平成23年度)</p> <p>2か所で毎月2回開所する 時間:13:00～18:00</p> <p>○平均参加者人数 大人 15～20名 子ども(小学生) 20～30名</p>		

<p>注意点や工夫点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビビデオを設置し、テレビ視聴、ビデオ鑑賞等が出来るようにした。</li> <li>●当初は室内を走り回る子どもが多く、高齢者の方から「会話が出来ない。」との苦情があった。高齢者と子どもと一緒にできることや、子どもたちの遊ぶスペースの確保を検討した。また、子ども達同士でのルール作りを行った。</li> <li>●広く住民に知ってもらうために、複数の方法で周知をした <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自治会だより」（自治会の広報紙）等での広報</li> <li>・掲示板や団地の各階段にお知らせのポスターを掲示</li> <li>・ふれあいクラブかもめの発会式の際に、あわせて披露した</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;取組の成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくり話し合う場が出来てうれしい。(大人)</li> <li>・皆といろいろな遊びができてうれしい。(子ども)</li> <li>・団地内住民や子ども達の交流ができ、住みよい団地の一助となる。(学生)</li> </ul> <p>さまざまな世代の住民に利用されており、交流の場として機能している。</p>
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●開催日を増やし、月4回の開催としたい。</li> <li>●カフェにおける映画会等のイベントの充実を図る</li> <li>●団地住民だけではなく、地域の住民も巻き込んだ活動にしたい。</li> <li>●子どもと一緒に若いお母さん方の参加が望まれる。</li> </ul>